

第64回 定時株主総会 招集ご通知



2023年6月21日（水曜日）
午前10時（受付開始 午前9時）



東京都千代田区一番町21番地
一番町東急ビル 12F

議案

- 第1号議案 取締役（監査等委員である者を除く。）
5名選任の件
- 第2号議案 監査等委員である取締役3名選任の件

株主総会にご出席の株主様へのお土産をご用意しておりません。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

証券コード：4743



書面交付請求されていない株主様には、株主総会参考書類と事業報告の一部を併せてご送付しております。

また、書面交付請求された株主様には、法令及び当社定款第16条に基づき電子提供措置事項から一部を除いた書面をご送付しております。



「スマート行使」と「ネットで招集」で議決権行使が簡単・便利に

パソコン・スマートフォン・タブレット端末からもご覧いただけます。こちらからも議決権行使ウェブサイトにもアクセスいただけます。



<https://s.srdb.jp/4743/>

株主の皆様へ

「寄り添うチカラ」で、人に、社会に、感動と笑顔を。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第64回定時株主総会の招集ご通知をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、2022年12月に創業50周年を迎えることができました。これもひとえに、株主の皆様をはじめすべての方々の支えがあったからこそと、心より感謝申し上げます。

2022年度のがわ国の経済は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和により着実に回復の兆しを見せつつも、世界的な資源・エネルギー価格や物価の高騰、半導体不足、円安の影響などまだまだ先行きが不透明な状況が続いています。そのような環境下で当社は、元来の強みである地域の顧客基盤を活かしたビジネスを堅実に展開するとともに、変化する社会のニーズに対応した非接触・非対面化を実現する新たなサービスを積極的に提供してまいりました。その結果、2022年度は受注高・売上高・各利益ともに過去最高を達成することができました。

2023年度は、経営環境が急激に変化する中でスタートさせた第3次中期経営計画「NEXT STAGE 2023」の最終年度であり、重要な1年となります。当社はこれまでの2年間で、「経営基盤の強化」「収益性の向上」「ESG経営の進化」という3つの基本方針を軸に、持続的な成長に向けて確かな土台づくりに努めてまいりました。営業利益の目標は1年前倒しで達成いたしました。残り1年間で企業価値のさらなる向上を目指し、次のステージに向けて改革の手を緩めることなくチャレンジし続けてまいります。

当社は次の50年に向けて新たなスタートを切ったばかりですが、「寄り添うチカラ」を大切に、皆様のご期待に沿えるよう尽力してまいります。今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
佐藤 恒徳

経営理念

「寄り添うチカラ」で 人々の感動と笑顔を生み出す



パーパス

地方創生による社会貢献を通して
すべての人や企業にサプライズを提供し、
持続可能な未来の発展に貢献します



ITFOR通信創刊のお知らせ

当社は創業以来、地域金融機関や地方自治体・百貨店など地域に根差したお客様へのシステムやサービスの提供を通して、地方経済の活性化に貢献してきました。当社のこと、システムのこと、働く社員のこと、それらを定期的にお伝えする場として昨年12月にITFOR通信を創刊しました。創業50周年を迎え、ますます成長していく姿を情報発信していきますのでぜひご覧ください。



詳しくはこちらから！

証券コード 4743

2023年6月1日

(電子提供措置の開始日 2023年5月25日)

株 主 各 位

東京都千代田区一番町21番地
株式会社 アイティフォー
代表取締役社長 佐藤 恒徳

第64回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第64回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイトにて電子提供措置事項を掲載しております。

当社ウェブサイト <https://ir.itfor.co.jp/>

また、上記のほか、インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。

東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

上記ウェブサイトにアクセスして、当社名または証券コード「4743」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択のうえ、ご覧ください。

株主の皆様におかれましては、感染拡大防止の観点から、本株主総会開催時点での感染状況をご考慮いただき、当日のご来場は慎重にご判断下さいますようお願い申し上げます。

なお、当日のご出席に代えて、書面またはインターネットの方法によって議決権を行使することができますので、お手数ながら8ページから16ページに掲載の株主総会参考書類をご検討のうえ、2023年6月20日（火曜日）午後5時までに議決権を行使くださいますようお願い申し上げます。

株主総会の模様は、株主の皆様へインターネットによるライブ配信（詳細は7ページに記載しております）を実施させていただきます。

敬 具

記

1. 日 時 2023年6月21日（水曜日）午前10時（受付開始：午前9時）
2. 場 所 東京都千代田区一番町21番地 一番町東急ビル12F
（末尾の会場ご案内図をご参照ください。）
3. 目的事項
報 告 事 項
- 第64期（自2022年4月1日至2023年3月31日）
事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査等委員会の
連結計算書類監査結果報告の件
 - 第64期（自2022年4月1日至2023年3月31日）計算書類報告の件
- 決 議 事 項
- 第1号議案 取締役（監査等委員である者を除く。）5名選任の件
第2号議案 監査等委員である取締役3名選任の件

以 上

-
- 株主総会にご出席の株主様へのお土産の提供はいたしておりませんのでご了承賜りますようお願い申し上げます。
 - 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
 - 電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトにて修正内容を掲載させていただきます。

株主様へのご案内

<当社の対応について>

本株主総会会場におきましては、株主総会当日の状況に応じて、運営スタッフのマスク着用など、感染予防措置を講じてまいります。

<株主様へのお願い>

感染リスクを避けるため、今年度は株主総会当日のご来場を可能な限りお控えいただき、書面・インターネット等による議決権行使をご推奨申し上げます。

<来場される株主様へのお願い>

ご来場の株主様におかれましては、ご自身の体調をお確かめのうえ、マスク着用などの感染予防にご配慮いただけますようお願い申し上げます。

議決権行使のご案内

株主総会における議決権は、株主の皆様の重要な権利です。電子提供措置事項に掲載の株主総会参考書類をご検討の上、議決権をご行使くださいますようお願い申し上げます。

議決権行使には以下の3つの方法がございます。

株主総会にご出席される場合



同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。

日時 2023年6月21日（水曜日）午前10時

会場 東京都千代田区一番町21番地 一番町東急ビル12F
(末尾の会場ご案内図をご参照ください。)

代理人によるご出席について

議決権をご行使できる当社の他の株主1名様を代理人にご指定のうえ、代理権を証明する書面を株主総会開会前に当社にご提出ください。

郵送で議決権をご行使される場合



同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、ご返送ください。

行使期限 2023年6月20日（火曜日）午後5時到着分まで

インターネット等で議決権を行使される場合



議決権行使サイトで議案に対する賛否をご入力いただき、ご送信ください。

行使期限 2023年6月20日（火曜日）午後5時入力分まで

● 議決権行使書用紙のご記入方法のご案内

こちらに、議案の賛否をご記入ください。

議決権行使書 株主番号 0123456789 議決権行使期限 10時

OOOO株式会社 御中
住所: OOOO市O区O丁目O番地O号
O区O丁目O番地O号 OOOO株式会社 代表取締役社長
〒0000000 OOOO市O区O丁目O番地O号
〒0000000 OOOO市O区O丁目O番地O号

議案番号	議案名	賛	否
1	議案第1号	○	○
2	議案第2号	○	○
3	議案第3号	○	○
4	議案第4号	○	○

100-8233
千代田区丸の内1丁目
本業1号
〒0000000
代表 太郎

見本

インターネット上で投票する場合は、インターネットを有線または無線で接続してください。機上装置のご接続が、この欄の注記を必ずご確認ください。

OOOO株式会社

全員賛成の場合

「賛」の欄に○印

全員否認する場合

「否」の欄に○印

一部の候補者を否認する場合

「賛」の欄に○印をし、否認する候補者の番号をご記入いただくか、「否」の欄に○印をし、賛成する候補者の番号をご記入ください。

議決権行使のお取り扱いについて

議決権行使書用紙において各議案に賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとして取り扱わせていただきます。

● インターネット等による議決権行使のご案内

QRコードを読み取る方法 「スマート行使」

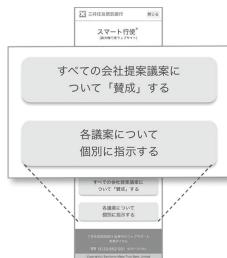
議決権行使コードおよびパスワードを入力することなく議決権行使ウェブサイトへログインすることができます。

1 議決権行使書用紙右下に記載のQRコードを読み取ってください。



※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

2 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。



「スマート行使」での議決権行使は1回に限り可能です。

議決権行使後に行使内容を変更する場合は、お手数ですがPC向けサイトへアクセスし、議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」・「パスワード」を入力してログイン、再度議決権行使をお願いいたします。

※QRコードを再度読み取っていただくと、PC向けサイトへ遷移できます。

インターネットによる議決権行使でパソコンやスマートフォンの操作方法などがご不明な場合は、右記にお問い合わせください。

※書面（郵送）およびインターネットの両方で議決権行使をされた場合は、当社に最後に到着した行使を有効な議決権行使として取り扱います。なお、インターネットによる議決権行使と議決権行使書が同日に到着した場合は、インターネットによる議決権行使を有効な議決権行使として取り扱います。

※インターネットにより複数回議決権をご行使された場合、またはパソコンとスマートフォンで重複して議決権をご行使された場合は、最後に行使されたものを有効として取り扱わせていただきます。

【機関投資家の皆様へ】

上記のインターネットによる議決権の行使のほかに、あらかじめ申し込みされた場合に限り、株式会社ICJが運営する議決権電子行使プラットフォームをご利用いただくことができます。

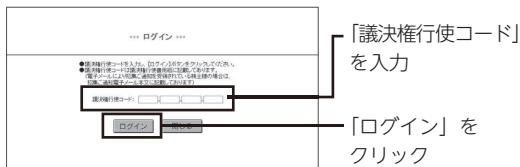
議決権行使コード・パスワードを 入力する方法

議決権行使
ウェブサイト <https://www.web54.net>

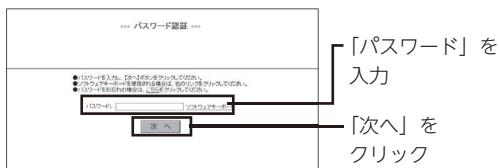
1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください。



2 議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」をご入力ください。



3 議決権行使書用紙に記載された「パスワード」をご入力ください。



4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル
電話番号：0120-652-031（フリーダイヤル）
（受付時間 午前9時～午後9時）

ライブ配信および事前質問の受付についてのご案内

第64回定時株主総会の様子をインターネットでライブ配信いたします。また、株主総会の開催に先立ち、株主の皆様から、インターネットにより事前質問をお受けいたします。ぜひご活用ください。

ライブ配信

ご来場いただく前に、ご自宅などから株主総会の様子をご覧いただけます。

なお、ライブ配信では、議決権を行使することができませんので、ご視聴される株主様は、書面またはインターネット(スマートフォン・パソコン等)により議決権を行使いただいたうえでご視聴ください。

配信日時 2023年6月21日(水曜日) 午前10時から

※午前9時50分よりご覧いただけます。

視聴方法 下記ウェブサイトアクセスのうえ、IDおよびパスワードをご入力ください。

事前質問の受付

第64回定時株主総会の開催に先立ち、当社経営に関するご質問を専用のウェブサイトでお受けいたします。

株主の皆様のご関心が高いと思われる事項につきましては、本総会で取り上げさせていただく予定です。

受付期間 2023年6月1日(木曜日) 午前9時～6月15日(木曜日) 午後5時

入力方法 下記ウェブサイトアクセスのうえ、IDおよびパスワードをご入力し、ご質問・ご意見をご記載ください。

ライブ配信・事前質問の受付はこちら ⇒ <https://s.srdb.jp/4743/>



ID：同封の議決権行使書用紙に記載されている「株主番号」(9桁)

パスワード：株主様のご登録住所の「郵便番号」(2023年3月末時点)(7桁)

※株主番号9桁は、頭の0(ゼロ)を省略せず、また郵便番号はハイフンなしでご入力ください。

議決権行使書

〇〇〇〇株式会社 御中

株主番号

●●●●●●●●●

パスワード
(郵便番号)

●●●●●●●●●
△△市□□町1-2-3
〇〇〇〇様

ID
(株主番号)

お問い合わせ先

ライブ配信の視聴方法について 宝印刷株式会社



0120-512-056

[受付時間]

株主総会当日6月21日(水曜日)
午前9時から配信終了まで

ご注意事項

ライブ配信について

- ・当日ご来場される株主の皆様のプライバシーに配慮し、ライブ配信の映像は議長席および役員席付近のみとしますが、やむを得ず株主様が映り込んでしまう場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ・ライブ配信のご視聴は、会社法上の株主総会の正式な出席ではなく、ライブ配信内での議決権行使およびご質問・ご意見などはお受けすることができませんので、あらかじめご了承ください。
- ・IDおよびパスワードの第三者への提供は固くお断りいたします。また、ライブ配信の写真撮影、録音、録画およびSNSなどへのアップロードはご遠慮ください。
- ・インターネット環境や機材トラブルその他事情により、やむを得ずライブ配信ができないうちは中断する場合があります。

- ・ご使用の機器や、インターネットの接続環境等により、映像や音声に不具合が生じる場合があります。
- ・ご視聴いただく場合の通信料金等は、株主様のご負担となります。
- ・万が一何らかの事情により配信を行わない場合は、当社ウェブサイトにおいてお知らせいたします。

事前質問について

- ・ご質問のうち、株主の皆様のご関心が高いと思われる事項につきましては本総会で取り上げさせていただく予定ですが、すべてのご質問にはご回答いたしかねますのであらかじめご了承ください。
- ・事前のご質問のなかで、本総会で取り上げることに至らなかったご質問につきましては、今後の参考とさせていただきます。

株主総会参考書類

第1号議案 取締役（監査等委員である者を除く。）5名選任の件

現在の取締役5名全員は、本総会の終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役（監査等委員である者を除く。）5名の選任をお願いいたしたいと存じます。

なお、本議案につきましては、任意の指名・報酬委員会の審議を経て、取締役会において決定しており、監査等委員会から全ての取締役候補者について適任である旨の意見を得ております。

取締役候補者は次のとおりであります。

1

佐 藤 恒 徳

生年月日

1964年12月14日

所有する当社の株式数

52,100株



再任

■ 略歴、地位、担当、重要な兼職の状況

- 1998年3月 当社入社
- 2008年6月 当社執行役員ソリューションシステム事業部副事業部長
- 2009年10月 当社執行役員ソリューションシステム事業部長
- 2011年6月 当社取締役執行役員ソリューションシステム事業部長
- 2013年4月 当社取締役執行役員フィナンシャルシステム第一事業部長
- 2016年6月 当社取締役常務執行役員フィナンシャルシステム事業本部長
- 2017年5月 当社取締役常務執行役員フィナンシャルシステム事業部長
- 2017年6月 当社代表取締役常務執行役員フィナンシャルシステム事業部長
- 2018年4月 当社代表取締役常務執行役員事業本部長兼フィナンシャルシステム事業部長
- 2018年6月 当社代表取締役専務執行役員事業本部長兼フィナンシャルシステム事業部長
- 2019年4月 当社代表取締役社長執行役員事業本部長
- 2021年4月 当社代表取締役社長（現任）

（重要な兼職の状況）

- 株式会社アイ・シー・アール 取締役
- 株式会社シー・ヴィ・シー 取締役
- 株式会社シディ 取締役

■ 取締役候補者とした理由

当社事業の中核である金融機関向けシステム事業での地方銀行をはじめとする金融機関へ向けたシステム開発と販売に大きく貢献したその豊富な実績と経験を活かし、2019年4月より当社の代表取締役社長に就任しております。経営の重要な意思決定および業務執行に対する監督機能の適切な遂行を期待するとともに、当社の持続的成長、中長期的な企業価値の向上に資する人物であると判断し、引き続き取締役に適任と判断いたしました。

生年月日
1966年1月26日

所有する当社の株式数
125,100株

再任



略歴、地位、担当、重要な兼職の状況

1987年4月 当社入社
 2008年6月 当社執行役員ソフトウェア第一事業部長
 2008年10月 当社執行役員ソフトウェア開発本部長
 2013年6月 当社取締役執行役員テクニカルサポート事業部長
 2014年6月 当社取締役常務執行役員技術開発本部長兼テクニカルサポート事業部長
 2015年10月 当社取締役常務執行役員技術開発本部長
 2018年8月 当社取締役常務執行役員公共システム事業部長兼技術開発本部管掌
 2019年4月 当社取締役専務執行役員公共システム事業部長兼ソフトウェア第四事業部長
 2019年6月 当社取締役専務執行役員公共システム事業部長兼ソフトウェア第三事業部長
 2020年4月 当社取締役専務執行役員技術開発本部長兼ソフトウェア第二事業部長
 2020年10月 当社代表取締役専務執行役員技術開発本部長兼ソフトウェア第二事業部長
 2023年4月 当社代表取締役専務執行役員技術開発本部長兼ソフトウェア第一事業部長（現任）

（重要な兼職の状況）

株式会社アイ・シー・アール 取締役
 株式会社イーブ 取締役
 株式会社アイセル 取締役
 株式会社アルファ新洋 取締役

取締役候補者とした理由

自らのシステムエンジニアとしての豊富な経験を活かし、これまで当社のパッケージソフトの品質改善やカスタマーサポート事業の顧客満足度向上に貢献してまいりました。2020年10月より代表取締役専務執行役員に就任し、技術部門の迅速な業務執行の実現、事業拡大に伴う経営体制および機能強化に貢献しており、これまでの経験と知見を経営に活かすことができるものと判断し、引き続き取締役に適任と判断いたしました。

生年月日
1957年7月23日

所有する当社の株式数
178,700株



再任

■ 略歴、地位、担当、重要な兼職の状況

- 1981年4月 当社入社
- 2004年6月 当社執行役員西日本事業所長
- 2005年4月 当社執行役員ソリューションシステム事業部長
- 2006年6月 当社取締役執行役員ソリューションシステム事業部長
- 2007年6月 当社取締役常務執行役員ソリューションシステム事業部長
- 2009年10月 当社取締役常務執行役員事業本部長
- 2015年4月 当社取締役常務執行役員フィナンシャルシステム第二事業部長
- 2016年6月 当社取締役執行役員フィナンシャルシステム事業本部第二事業部長
- 2017年5月 当社取締役執行役員CTI・基盤システム事業部長
- 2018年12月 当社取締役執行役員CTI・通信システム事業部長
- 2020年4月 当社取締役執行役員通信・エンタープライズシステム事業部長
- 2021年4月 当社取締役執行役員事業本部長兼流通・eコマースシステム事業部長（現任）

（重要な兼職の状況）

株式会社シー・ヴィ・シー 取締役

■ 取締役候補者とした理由

これまで中核事業である金融機関向けシステム事業でのサービサーやノンバンク向けシステムの開発および事業の拡大に大きな貢献を果たした実績と、取締役執行役員事業本部長として事業全体の統括にまい進してきた経験と見識により適切に役割を果たしており、当社グループのさらなる発展を牽引することが期待できることから、引き続き取締役に適任と判断いたしました。

なか やま
中山 かつお

生年月日

1965年5月9日

所有する当社の株式数
75,100株



再任

■ 略歴、地位、担当、重要な兼職の状況

1991年10月 太田昭和監査法人（現 EY新日本有限責任監査法人）入社

2003年6月 当社社外監査役

2010年6月 当社取締役執行役員管理本部長（現任）

（重要な兼職の状況）

株式会社アイ・シー・アール 代表取締役

株式会社シー・ヴィ・シー 監査役

株式会社イーブ 監査役

株式会社シディ 取締役

■ 取締役候補者とした理由

公認会計士として当社社外監査役を務めた経験を活かし、2010年6月より取締役執行役員管理本部長として適時開示体制を支え、内部統制部門を統括してきた実績と、子会社の責任者として自治体向けBPOビジネスの拡大とリスクマネジメントを推進してきた経験と見識を踏まえ、引き続き取締役に適任と判断いたしました。

生年月日
1972年6月15日

所有する当社の株式数
1,200株



再任

社外取締役

略歴、地位、担当、重要な兼職の状況

2004年3月 株式会社エスケーエレクトロニクス入社
 2013年4月 同社経営戦略室副室長
 2014年4月 株式会社写真化学入社
 2014年6月 同社 取締役
 2019年12月 株式会社エスケーエレクトロニクス 取締役
 事業開発室担当（現任）
 2021年6月 当社社外取締役（現任）

（重要な兼職の状況）

株式会社エスケーエレクトロニクス 取締役

社外取締役候補者とした理由および期待される役割

海外での新規事業立ち上げや事業会社の取締役としての経験と見識を有していることから、当社取締役会の意思決定が妥当なものであるかどうかにつき厳正な判断をいただくこと等により、当社の経営の監督機能強化への貢献が期待できることから、引き続き社外取締役に適任と判断いたしました。

- （注）
1. 各候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
 2. 当社の監査等委員会は、取締役候補者の知識、経験、能力および業績向上への貢献等から取締役に選任することが適切であると判断いたしました。
 3. 取締役候補者の選任につきましては、任意の指名・報酬諮問委員会の審議を踏まえ、取締役会にて候補者を決定しております。
 4. 阿部和香氏は、社外取締役候補者であり、社外取締役に就任してからの年数は本総会終結の時をもって2年となります。
 5. 当社は、阿部和香氏を東京証券取引所の規定に基づく独立役員として届け出ております。
 6. 当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任の限度額を法令で定める額とする責任限定契約を締結することができる旨を定めており、現在当社の非業務執行取締役の全員と当該責任限定契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第1項に定める最低責任限度額としており、阿部和香氏が選任された場合、上記責任限定契約を継続する予定であります。
 7. 当社は、保険会社との間で、当社が保険料の全額を負担する役員等賠償責任保険契約を締結しております。当社のすべての取締役を被保険者とし、これらの役職の立場で行った行為による損害賠償金および争訟費用等を填補いたします。2023年8月に現行契約が満了いたしますが、同様の内容で更新予定となっております。

第2号議案 監査等委員である取締役3名選任の件

現在の監査等委員である取締役3名全員は、本総会の終結の時をもって任期満了となりますので、監査等委員である取締役3名の選任をお願いいたしたいと存じます。

なお、本議案につきましては、任意の指名・報酬委員会の審議を経て、取締役会において決定しており、監査等委員会の同意を得ております。

監査等委員である取締役候補者は次のとおりであります。

1	<small>もと</small> 本	<small>やま</small> 山	<small>まさ</small> 昌	<small>ひと</small> 人
生年月日	所有する当社の株式数			
1958年2月24日	92,500株			
				
再任				

■ 略歴、地位、担当、重要な兼職の状況

- 1981年4月 当社入社
- 2008年6月 当社執行役員事業本部副本部長
- 2011年6月 当社取締役執行役員事業本部副本部長
- 2013年6月 当社取締役執行役員事業開発部長
- 2016年6月 当社執行役員事業開発部長兼コンタクトセンターサービス部長
- 2017年6月 当社事業開発部長
- 2018年4月 当社CTI・基盤システム事業部 営業一部 シニアスペシャリスト
- 2021年4月 当社フィナンシャルシステム事業部 営業推進部 シニアスペシャリスト
- 2021年6月 当社取締役 監査等委員（現任）

（重要な兼職の状況）

株式会社アイ・シー・アール 監査役

■ 取締役候補者とした理由

当社の金融関係の業務に長年携わってきた経験と豊富な知識を有しており、当社の取締役会での重要な経営判断の際に適切な助言および提言が期待できることから、引き続き監査等委員である取締役として適任と判断しました。

生年月日
1964年7月4日

所有する当社の株式数
14,900株



再任

社外取締役

■ 略歴、地位、担当、重要な兼職の状況

1987年4月 安田信託銀行株式会社（現 みずほ信託銀行株式会社）入社
 1996年1月 経営コンサルタント業開業
 2000年10月 監査法人太田昭和センチュリー（現 EY新日本有限責任監査法人）入社
 2005年4月 公認会計士登録
 2005年4月 佐藤誠公認会計士事務所開設（現任）
 2006年2月 税理士登録
 2006年2月 佐藤誠税理士事務所開設（現任）
 2007年8月 あすなろ監査法人代表社員（現任）
 2010年6月 当社監査役
 2015年6月 当社社外取締役 監査等委員（現任）

（重要な兼職の状況）

株式会社シディ 監査役
 細谷火工株式会社 社外取締役

■ 社外取締役候補者とした理由および期待される役割

公認会計士、税理士、経営コンサルタントとしての豊富な経験と高い見識を有しており、これまで監査等委員である取締役として、その専門の見地から当社の経営執行の監査を行うとともに、当社の重要な経営判断の場において適切な助言および提言を行ってきた実績を踏まえ、引き続き監査等委員である社外取締役として適任と判断いたしました。

こ 泉 大 輔

生年月日
1970年9月5日

所有する当社の株式数
8,900株



再任

社外取締役

略歴、地位、担当、重要な兼職の状況

- 1995年10月 朝日監査法人（現 有限責任あずさ監査法人）入社
- 1999年4月 公認会計士登録
- 2002年1月 新日本監査法人（現 EY新日本有限責任監査法人）入社
- 2003年1月 株式会社K I Aプロフェッショナル（現株式会社オーナーズブレイン）取締役
- 2003年7月 株式会社K I Aプロフェッショナル（現株式会社オーナーズブレイン）代表取締役（現任）
- 2004年9月 税理士登録
- 2010年6月 当社監査役
- 2015年6月 当社社外取締役 監査等委員（現任）

（重要な兼職の状況）

株式会社オーナーズブレイン 代表取締役

社外取締役候補者とした理由および期待される役割

経営者としての豊富な経験と公認会計士、税理士としての高い見識を有しており、これまで監査等委員である取締役として、その専門的見地から当社の経営執行の監査を行うとともに、当社の重要な経営判断の場において適切な助言および提言を行ってきた実績を踏まえ、引き続き監査等委員である社外取締役として適任と判断いたしました。

- （注）
1. 各候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
 2. 佐藤誠氏および小泉大輔氏は現に当社の社外取締役であり、社外取締役に就任してからの年数は本總會終結の時をもって8年となります。
 3. 当社は、佐藤誠氏および小泉大輔氏を東京証券取引所の規定に基づく独立役員として届け出ております。
 4. 当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任の限度額を法令で定める額とする責任限定契約を締結することができる旨を定めており、現在当社の非業務執行取締役の全員と当該責任限定契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第1項に定める最低責任限度額としており、各候補者が選任された場合、上記責任限定契約を継続する予定であります。
 5. 当社は、保険会社との間で、当社が保険料の全額を負担する役員等賠償責任保険契約を締結しております。当社のすべての取締役を被保険者とし、これらの役職の立場で行った行為による損害賠償金および争訟費用等を填補いたします。2023年8月に現行契約が満了いたしますが、同様の内容で更新予定となっております。

<ご参考>

第1号議案および第2号議案の候補者を原案どおりご選任いただいた場合の取締役会のスキルマトリックスは以下のとおりとなります。

氏名	役職	経営経験	ESG・サステナビリティ	マーケティング・事業戦略	IT・インフラ技術	業界知識	国際性・多様性	法律・リスクマネジメント	財務会計・M&A
さとう つね のり 佐藤 恒 徳	代表取締役社長	○	○	○	○		○		
さかた こう じ 坂田 幸 司	代表取締役専務執行役員 技術開発本部長	○		○	○	○			○
おおえだ ひろ たか 大 枝 博 隆	取締役執行役員 事業本部長	○	○	○		○		○	
なかやま かつお 中山 かつお	取締役執行役員 管理本部長	○	○			○		○	○
あべ わ か 阿部 和 香	社外取締役	○	○	○			○		
もとやま まさ ひと 本山 昌 人	取締役 常勤監査等委員	○		○		○		○	
さとう まこと 佐藤 誠	社外取締役 監査等委員		○			○		○	○
こいずみ だい すけ 小泉 大 輔	社外取締役 監査等委員	○	○				○	○	

各取締役に期待する分野を最大5つまで記載しています。

また、一覧表は各取締役の有する全ての知見・経験を示すものではありません。

以 上

事業報告

(自2022年4月1日)
(至2023年3月31日)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過および成果

当社グループは2021年度から2023年度を対象とした中期経営計画を策定し、経営基盤の強化、収益性の向上、E S G経営の進化の3つを柱に、「お客様に寄り添うチカラ」で持続的成長の実現を目指し、計画の達成に向け事業活動を推進しております。

当連結会計年度（2022年4月1日～2023年3月31日）におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の第7波と第8波の影響を受けましたが、行動制限の緩和傾向に伴い穏やかに持ち直しの動きが見られます。一方、世界的な資源価格や物価の高騰、円安の影響など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く国内ITサービス業界では、「非接触」や「非対面」を実現するデジタル化のニーズが引き続き高く、AIやブロックチェーンなど、デジタル技術を活用したビジネスプロセスやビジネスモデルの変革を行うDX（デジタルトランスフォーメーション）を中心に企業の投資意欲は引き続き高い状態にあります。その一方で、一部の業種や企業では、先行き不透明な景況感の中でIT投資の抑制や先送りの動きが続いており、企業の投資計画の見直しについて注視しております。

営業活動においては、金融機関を中心に、当社の主力である延滞債権管理システムの継続的な更改に加え、個人ローン業務支援システム「SCOPE」と業務の非対面化を実現するローンWeb受付システム「WELCOME」を組み合わせた新規販売および機能追加が引き続き安定的に推移しました。これらの当社システムは、申込用紙の削減や契約書類も電子化することで環境への配慮を実現しつつ、審査に費やす時間の短縮に貢献しております。また、延滞債権督促業務を無人化した「ロボティックコール」の販売が好調で、大手金融機関にも新規導入されるなど、利用が広がっています。受注高は185億67百万円（前年同期比105.8%）、受注残は153億円（前年同期比101.6%）といずれも前年同期を上回り、過去最高となりました。

これらの結果、当連結会計年度の業績は、売上高は183億22百万円（前年同期比107.6%）、営業利益は32億17百万円（前年同期比106.1%）、経常利益は32億78百万円（前年同期比105.5%）、親会社株主に帰属する当期純利益は22億91百万円（前年同期比108.5%）と増収増益となりました。売上・利益共に過去最高を更新したほか、営業利益は、中期経営計画の目標を1年前倒しで達成しました。

なお、報告セグメント別の経営成績は次のとおりです。

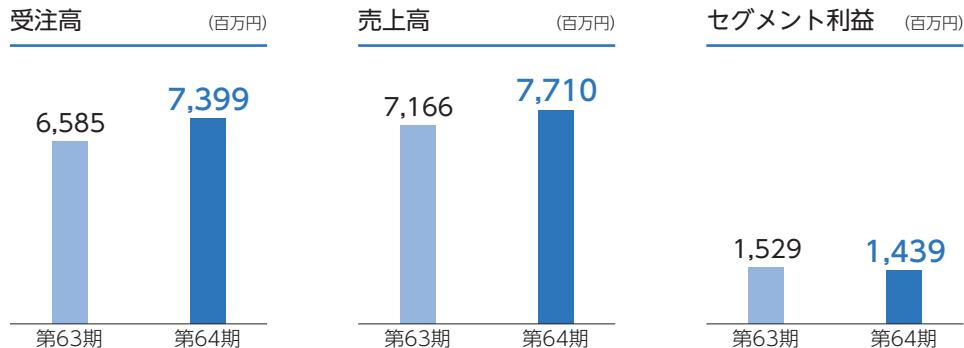
(システム開発・販売)

基幹事業である金融機関向けのソフト開発、インフラ設備の更改、延滞債権督促業務を無人化した「ロボティックコール」の導入などにより販売は安定的に推移しております。また、マルチ決済端末「iRITSpay決済ターミナル」は端末の部品調達の遅れが徐々に緩和しました。その結果、受注高は111億68百万円（前年同期比101.9%）、売上高は106億11百万円（前年同期比107.7%）、セグメント利益は17億78百万円（前年同期比118.4%）となりました。



(リカーリング)

安定収益源である保守サービスに加え、公共分野向けBPO（業務受託）サービスにおいて政令市・中核市を中心に、既存契約先からの追加受注および、新規受託先の売上が計上されるなど引き続き堅調に推移しております。その結果、受注高は73億99百万円（前年同期比112.3%）、売上高は77億10百万円（前年同期比107.6%）、セグメント利益は14億39百万円（前年同期比94.1%）となりました。



[売上高の内訳]

セグメント別の売上構成は以下のとおりです。

区 分	金 額	構 成 比
シ ス テ ム 開 発 ・ 販 売	106億11百万円	57.9%
リ カ ー リ ン グ	77億10百万円	42.1%
合 計	183億22百万円	100.0%

(注) セグメント別売上高は、外部顧客への売上高を表示しております。

<社会貢献活動>

当社は、企業としての社会的責任を果たすため、国連WFP協会および公益財団法人日本ユニセフ協会に寄付を行っております。

また、サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）の『『地方創生』による社会貢献』にも積極的に取り組む中で、九州のサイクルロードレース「ツール・ド・九州2023」に協賛し九州地域のSDGs達成に向けた活動を支援するほか、「熊本県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を掲げている熊本県に企業版ふるさと納税の寄付を行っております。

(2) 設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資総額は5億70百万円であり、その主なものは以下のとおりです。

建物付属設備の取得	89百万円
工具器具備品の取得	1億55百万円
自社利用ソフトウェアの取得	1億9百万円
市場販売用ソフトウェアの開発	37百万円

(3) 資金調達の状況

当連結会計年度の設備投資の必要資金は全額自己資金で賄いました。

また、当社においては、効率的な資金調達を行うため、主要取引銀行と総額15億円のコミットメントライン（特定融資枠契約）を締結しておりますが、この契約に基づく当連結会計年度末の借入実行残高はありません。

- (4) 事業の譲渡、吸収分割、新設分割および他の会社の事業の譲受けの状況
特記すべき事項はありません。
- (5) 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分
特記すべき事項はありません。
- (6) 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況
該当事項はありません。

(7) 対処すべき課題

今後の経営環境につきましては、引き続き世界的な新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響が懸念されており、終息時期が不透明な中、ワクチン接種など感染対策の浸透や国・自治体による様々な政策の実施効果により、国内経済の自律的な回復が期待されます。その一方で、地政学的リスクの高まりにより、原油や原材料価格など商品市況の高騰、金融市場の混乱といった不安要因も多くみられ、依然として先行き不透明な状況が続くものと思われまます。当社グループでは以下の3点に取り組むことにより、将来にわたる持続的な成長を通じて企業価値の向上に努めてまいります。

(中期経営計画の遂行)

社会環境の変化に伴い社会やお客様のニーズも多様化するなか、2023年度は中期経営計画の最終年度として、当初財務目標として掲げた、売上高210億円、営業利益32億円、ROEおよびROIC13%以上の達成を目指してまいります。

(機構変動リスクへの対応)

世界的な気候変動による気温上昇、豪雨や洪水といった甚大な自然災害など、私たちが抱えている大きなリスクに対し、直接・間接的に、国際的枠組みに基づいた温室効果ガス排出量規制の強化に向けた取り組みを進め2030年までの排出量半減に向けてチャレンジしていきます。また、業務継続性の観点でのBCP対策のソリューションも提供してまいります。

(人財投資)

当社の最重要資産でかつ成長の原動力となるのは人・社員であります。優秀な人財を確保することは当社グループの持続的成長に必要不可欠ですので、多様な働き方を実現する職場環境の改善、福利厚生充実、人事考課制度の整備・運用および採用活動の多様化に努め、社員のスキルアップと組織の活性化を図ることで引続き人財の確保と育成に積極的に取り組んでまいります。

(8) 財産および損益の状況の推移

区 分	第61期 2020年3月期	第62期 2021年3月期	第63期 2022年3月期	第64期(当期) 2023年3月期
売上高(百万円)	15,239	16,289	17,021	18,322
経常利益(百万円)	1,839	2,317	3,106	3,278
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	1,232	1,683	2,112	2,291
1株当たり当期純利益(円)	44.98	61.56	76.84	82.96
総資産(百万円)	16,294	18,690	20,010	21,667
純資産(百万円)	12,564	14,101	15,606	17,167
1株当たり純資産(円)	458.83	512.48	565.00	618.80

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第63期の期首から適用しており、第63期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(9) 重要な親会社および子会社の状況

- ① 親会社との関係
該当事項はありません。
- ② 重要な子会社の状況

会 社 名	資 本 金	当社の議決権比率	主 要 な 事 業 内 容
株式会社アイ・シー・アール	100,000千円	100.0%	地方自治体の国民健康保険料等の各種案内・収納業務受託
株式会社シー・ヴィ・シー	100,000千円	100.0%	訪問調査サービス
株式会社イーブ	14,500千円	100.0%	ソフトウェアの開発
株式会社シディ	25,000千円	100.0%	デジタルサービス事業、決済代行事業

③ 企業結合の経過と成果

連結子会社は、株式会社アイ・シー・アール、株式会社シー・ヴィ・シー、株式会社イーブ、株式会社シディの4社であり、持分法を適用した関連会社として株式会社アイセルの1社があります。

なお、2022年7月7日付で、株式会社シディを設立したことにより、連結子会社の範囲に含めております。

当連結会計年度の当社グループの企業集団の成果は「(1) 事業の経過および成果」に記載のとおりです。

(10) 主要な事業セグメント

当社グループは、製品・サービスのビジネス特性を基礎としたセグメントから構成されており、「システム開発・販売」、「リカーリング」の2つを報告セグメントとしております。

事業区分	主要な製品・サービス
システム開発・販売	主にシステム機器販売、ソフトウェアやシステムインフラ基盤に関する設計・開発から導入・設置までの一貫したサービス
リカーリング	主にソフトウェア保守、ハードウェアの保守・運用、クラウド、BPOサービス

(11) 主要な事業所等 (2023年3月31日現在)

本社 東京都千代田区一番町21番地
事業所 所沢事業所 (所沢市)、西日本事業所 (大阪市)、
中部事業所 (名古屋市)、福岡営業所 (福岡市)、
沖縄営業所 (那覇市)
株式会社アイ・シー・アール (愛知県)
株式会社シー・ヴィ・シー (福岡県)
株式会社イーブ (石川県)
株式会社シディ (東京都)

サービス・ステーション他 中部分室

(12) 従業員の状況 (2023年3月31日現在)

(当社グループ)

従業員数	前期末比増減
568名 (887名)	△35名 (+2名)

(注) 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は()内に年間平均人数を外数で記載しております。なお、臨時従業員数はパートタイマーを含んでおります。

(当社)

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
457名 (442名)	△31名 (+45名)	41.5歳	11.0年

(注) 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は()内に年間平均人員数を外数で記載しています。なお、臨時従業員はパートタイマーの人数になります。

(13) 主要な借入先 (2023年3月31日現在)

該当事項はありません。

(14) 剰余金の配当等を取締役会が決定する旨の定款の定めがあるときの権限の行使に関する方針

当社は、株主への利益還元を重要な経営課題の一つと認識しており、業績や財務状況を勘案しながら、安定的かつ継続的に配当を行うことを基本方針とし、連結配当性向30%以上を目処に年1回の配当を実施しております。

2023年5月11日の取締役会において、1株当たり30円の配当を行うことを決議しております。

(15) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

2. 会社の株式に関する事項（2023年3月31日現在）

(1) 発行可能株式総数 110,000,000株

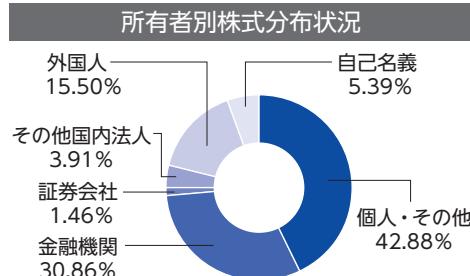
(2) 発行済株式の総数 29,430,000株
（自己株式1,586,213株を含む）

(3) 株主数 10,000名

(4) 大株主

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 （信託口）	3,826,300株	13.74%
株式会社日本カストディ銀行 （信託口）	1,734,396	6.23
株式会社日本カストディ銀行 （三井住友信託銀行再信託分・ ブラザー工業株式会社退職給付信託口）	1,420,000	5.10
アイティフォー社員持株会	1,004,000	3.61
K I A F U N D 1 3 6	616,918	2.22
明治安田生命保険相互会社	551,400	1.98
株式会社横浜銀行	500,000	1.80
RBC ISB LUX NON RES / DOM RATE-UCITS CLIENTS ACCOU NT-MIG	386,600	1.39
村 上 英 志	361,000	1.30
東 川 清	347,000	1.25

- (注) 1. 株式会社日本カストディ銀行（三井住友信託銀行再信託分・ブラザー工業株式会社退職給付信託口）の所有株式は、ブラザー工業株式会社が所有していた当社株式を三井住友信託銀行株式会社に信託したものが、株式会社日本カストディ銀行に再信託されたもので、議決権はブラザー工業株式会社に留保されております。
2. 当社は自己株式1,586,213株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。なお、自己株式には、株式報酬制度の信託財産として株式会社日本カストディ銀行が保有する当社株式123,796株は含めておりません。
3. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。



- (5) その他株式に関する重要な事項
特記すべき事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

(1) 当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況

定 時 株 主 総 会 決 議 の 日	2017年6月21日
発 行 決 議 の 日	2017年9月13日
新 株 予 約 権 の 数	410個
保 有 人 数	当社取締役（監査等委員である者を除く。）4名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	41,000株
新株予約権の払込金額	無償
新株予約権の行使に対して出資される財産の価額	1株当たり642円
新株予約権の行使期間	2019年9月16日から 2024年9月15日まで

(2) 当事業年度中に職務執行の対価として使用人、子会社役員および使用人に対し交付した新株予約権の状況

該当事項はありません。

(3) その他新株予約権等に関する重要な事項

該当事項はありません。

4. 会社役員に関する事項

(1) 取締役の氏名等 (2023年3月31日現在)

地 位	氏 名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役社長	佐藤恒徳	株式会社アイ・シー・アール 取締役 株式会社シー・ヴィ・シー 取締役 株式会社シディ 取締役
代表取締役専務執行役員	坂田幸司	技術開発本部長 ソフトウェア第二事業部長 株式会社アイ・シー・アール 取締役 株式会社イーブ 取締役 株式会社アイセル 取締役 株式会社アルファ新洋 取締役
取締役執行役員	大枝博隆	事業本部長 流通・eコマースシステム事業部長 株式会社シー・ヴィ・シー 取締役
取締役執行役員	中山かつお	管理本部長 株式会社アイ・シー・アール 代表取締役 株式会社シー・ヴィ・シー 監査役 株式会社イーブ 監査役 株式会社シディ 取締役
社外取締役	阿部和香	株式会社エスケーエレクトロニクス 取締役
取締役(監査等委員)	本山昌人	株式会社アイ・シー・アール 監査役
社外取締役(監査等委員)	佐藤誠	公認会計士 株式会社シディ 監査役 細谷火工株式会社 取締役
社外取締役(監査等委員)	小泉大輔	公認会計士 株式会社オーナーズブレイン 代表取締役

- (注) 1. 社外取締役 佐藤誠氏および小泉大輔氏は、公認会計士の資格を有しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
2. 社外取締役 阿部和香氏、佐藤誠氏および小泉大輔氏が兼職しているその他の法人等と当社との間には、重要な関係はありません。
3. 当社は、社外取締役 阿部和香氏、佐藤誠氏および小泉大輔氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。
4. 監査等委員会の監査・監督機能を強化するため、取締役(監査等委員である者を除く。)からの情報収集および重要な社内会議における情報共有ならびに内部監査部門と監査等委員会との十分な連携を可能とすべく、本山昌人氏を常勤の監査等委員として選定しております。

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社は、取締役（業務執行取締役等である者を除く。）が期待される役割を十分に発揮することができるよう、定款において、会社法第427条第1項に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任の限度額を法令で定める額とする責任限定契約を締結することができる旨を定めており、当社の非業務執行取締役の全員と当該責任限定契約を締結しております。

(3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、株主や第三者等から損害賠償請求を提起された場合において、被保険者が負担することになる損害賠償金・争訟費用等の損害を当該保険契約により填補することとしております。当該保険契約の被保険者は当社取締役であり、その保険料を全額当社が負担しております。

(4) 当事業年度に係る取締役の報酬等

① 取締役の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針に係る事項

a. 基本方針

当社の役員報酬は、当社および当社グループの持続的成長と中長期的な企業価値増大に向けて優秀な経営陣の確保・リテンションと動機付けに資することを目的とし、業績との連動性を適切に保ち、健全なインセンティブとして機能する、透明性と客観性を備えたプロセスにより決定されることを基本方針としております。

取締役会は、当事業年度の個別報酬額について、その内容が上記方針と整合しており、その決定方法についても指名・報酬委員会の答申に基づき2022年6月17日開催の取締役会で決定されていることから、上記方針に沿うものであると判断しております。

b. 報酬体系

当社の役員報酬は、基本報酬と業績連動報酬で構成され、同業または同規模の他企業との比較、当社の財務状況および個人の貢献度を踏まえて取締役会で審議し、決定しています。社外取締役および監査等委員である取締役には、業績連動報酬等の変動報酬は相応しくないため、「基本報酬」のみの支給としています。

② 取締役の報酬等についての定めまたは株主総会の決議による定めに関する事項

当社の役員報酬の限度額は、2015年6月19日開催の第56回定時株主総会において、取締役（監査等委員である者を除く。）は年額30,000万円以内、監査等委員である取締役は年額3,500万円以内とそれぞれ決議しており、第56回定時株主総会終結時点の取締役（監査等委員である者を除く。）の員数は8名、監査等委員である取締役は3名（うち社外取締役2名）です。

中長期的のインセンティブ報酬である税制適格ストックオプション（非金銭報酬等）

は、2017年6月21日開催の第58回定時株主総会において決議されており、第58回定時株主総会終結時点の取締役（監査等委員である者を除く。）の員数は8名、監査等委員である取締役は3名（うち社外取締役2名）です。

取締役（監査等委員である者を除く。）に対する業績連動型株式報酬である株式交付信託（非金銭報酬等）は、2021年6月18日開催の第62回定時株主総会において決議されており、第62回定時株主総会終結時点の取締役（監査等委員である者を除く。）の員数は5名（うち社外取締役1名）、監査等委員である取締役は3名（うち社外取締役2名）です。

③ 業績連動報酬等に関する事項

業績連動報酬は、短期業績に基づき変動するインセンティブ報酬である月次報酬、中長期的のインセンティブ報酬である税制適格ストックオプション（非金銭報酬等）および業績連動型株式報酬である株式交付信託（非金銭報酬等）から構成されます。月次報酬は各事業年度の親会社株主に帰属する当期純利益の目標値に対する達成率に応じて算出された額を支給いたします。

i. 短期のインセンティブ報酬である月次報酬

当該業績連動報酬に係る指標は、当社グループの成長が着実な利益を伴っているかを測定する観点から、親会社株主に帰属する当期純利益としております。なお、2022年度は目標値1,943百万円、実績値2,291百万円となりました。

業績連動報酬の総額＝親会社株主に帰属する当期純利益×8.0%×全社業績評価係数

ただし、親会社株主に帰属する当期純利益がマイナス(損失)の場合は、0円とします。

個人別支給額の算定方法

$$= \text{業績連動報酬の総額} \times \frac{\text{役職ごとのポイント} \times \text{個人業績評価係数}^{\ast}}{\text{役職ごとのポイント} \times \text{個人業績支給係数}^{\ast} \text{の総和}}$$

※個人業績評価係数は各取締役の個人業績指標に対する成果・貢献割合に応じて0%から150%の範囲で定めます。各取締役の個人業績指標に対する成果・貢献割合は、指名・報酬委員会による総合評価によっております。

$$\text{月次報酬} = \text{個人別支給額} \div 12$$

役職ごとのポイント

役 職	ポイント
会 長	120
社 長	120
副社長	80
専 務	50
常 務	40
取締役	10

ii. 中長期のインセンティブ報酬である税制適格ストックオプション

当社のストックオプションは、2017年6月21日開催の第58回定時株主総会において決議し、役職に応じた一定数の付与を行っております。

ストックオプションは約2年の待機期間の後、1年間に付与された数の20%ずつ行使可能であり、行使可能期間は5年間としております。

iii. 報酬の構成比率

役 職	基本報酬	業績連動報酬	合 計
会 長	58%	42%	100%
社 長	58%	42%	
副社長	58～60%	40～42%	
専 務	60～62%	38～40%	
常 務	62～65%	35～38%	
取締役	68～72%	28～32%	

(注) 1. 基本報酬は該当の役職における中央値とし、業績連動報酬は目標達成率を100%とした場合のモデルです。

2. 同一の役職でも個人別の報酬の構成比率は異なることがあります。

3. 取締役は従業員部分の給与および賞与を含んでいます。

iv. 役員報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者の氏名または名称

各取締役の報酬額は、代表取締役社長が役職、職務分掌、業績への貢献度などを総合的に勘案して原案を作成し、取締役会が諮問機関である任意の指名・報酬委員会に対して案を提出し、当該委員会の答申に基づいて取締役会で決定しております。任意の指名・報酬委員会は社外取締役を委員長にして、社外取締役3名、代表取締役2名の5名で構成されております。

v. 株式交付信託

株価上昇によるメリットを享受するのみならず株価下落リスクをも負担し、株主視点を共有するべく、2021年6月18日開催の第62回定時株主総会決議に基づき、株式報酬制度を導入いたしました。

当社の設定した信託が当社株式を取得し、対象となる取締役に対して当社株式を交付する株式交付信託で、取締役会で定めた株式交付規程に基づき対象取締役に対して、信託期間中の株式交付規程に定めるポイント付与日において、役位および業績目標の達成度等に応じたポイントを付与し（3事業年度を対象として150,000ポイントが上限）、付与を受けたポイント数に応じて、退任時に当社株式が対象取締役に交付されます。（交付される株式の数は、付与されたポイント数に1を乗じた数）

本制度は取締役会の決定により、対象期間を3事業年度以上5事業年度以内の期間を都度定めて延長するとともに、これに伴い本信託の信託期間を延長し（当社が設定する本信託と同一の目的の信託に本信託の信託財産を移転することにより、実質的に信託期間を延長することを含みます。）、本制度を継続することがあります。この場合、当社は当該延長分の対象期間中に、本制度により取締役に交付するために必要な当社株式の追加取得資金として、当該延長分の対象期間の事業年度数に金33百万円を乗じた金額を上限とする金銭を本信託に追加拠出し、ポイント付与および当社株式の交付を継続します。

①	本制度の対象者	当社の取締役（監査等委員である取締役および社外取締役を除く。）
②	対象期間	2022年3月末日に終了する事業年度から2024年3月末日に終了する事業年度まで
③	②の対象期間（3事業年度）において、①の対象者に交付するために必要な当社株式の取得資金として当社が拠出する金銭の上限	合計金99百万円
④	当社株式の取得方法	自己株式の処分による方法又は取引所市場（立会外取引を含む。）から取得する方法
⑤	①の対象者に付与されるポイント総数の上限	対象期間の3事業年度を対象として合計150,000ポイント
⑥	ポイント付与基準	役位および業績目標の達成度等に応じたポイントを付与
⑦	①の対象者に対する当社株式の交付時期	原則として退任時

④ 取締役の報酬等の総額等

役員区分	報酬等の総額(千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	ストック オプション	退職慰労金	
取締役（監査等委員である取締役および社外取締役を除く。）	180,342	81,000	96,957	2,385	－	4
社外取締役（監査等委員である取締役を除く。）	4,800	4,800	－	－	－	1
監査等委員である取締役（社外取締役を除く。）	14,727	14,727	－	－	－	1
監査等委員である社外取締役	9,780	9,780	－	－	－	2

(注) 役員ごとの報酬等の総額につきましては、1億円以上を支給している役員はありませんので、記載を省略しております。

(5) 社外取締役に関する事項

地 位	氏 名	出 席 状 況	発 言 状 況
社 外 取 締 役	阿 部 和 香	取締役会 24回／25回	主に企業経営者としての幅広く高度な経験の見地からの発言を行っております。
社 外 取 締 役 (監 査 等 委 員)	佐 藤 誠	取締役会 25回／25回 監査等委員会 19回／19回	主に公認会計士としての専門的な見地からの発言を行っております。
社 外 取 締 役 (監 査 等 委 員)	小 泉 大 輔	取締役会 25回／25回 監査等委員会 18回／19回	主に経営者・公認会計士としての豊富な経験に基づき発言を行っております。

5. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

会計監査人の報酬等の額(注)	35,000千円
当社および当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	35,000千円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を区分しておらず、実質的にも区分できないため、これらの合計額を記載しております。
2. 当社の監査等委員会は、会計監査人から説明を受けた当事業年度の監査計画の監査日数、人員配置および監査内容等、前事業年度の監査実績の検証と評価、会計監査人の監査の遂行状況の相当性、報酬の前提となる見積りの算出根拠を精査した結果、会計監査人の報酬等の額について同意いたしました。

(3) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は解任後最初に招集される株主総会において会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

また、当社監査等委員会は、会計監査人が職務を適切に遂行することが困難と認められる場合等、会計監査人の変更が必要と判断される場合には、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定し、取締役会に株主総会の目的とする事を求めます。

6. 株式会社の支配に関する基本方針に関する事項

(1) 基本方針の内容

当社は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、長期に亘り安定して培ってきた信頼や技術力を含む当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保し、向上させることができる者であることが必要と考えております。

当社は、公開会社として、当社株式の自由な売買を認めることは当然のことであり、特定の者またはグループによる大量買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かの最終的な判断は、当社株式を保有する株主の皆様にご委ねられるべきものと考えております。しかしながら、当該大量買付行為が、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、必要かつ相当な手段を講じることにより、当社の中長期的な企業価値ひいては株主共同の利益を確保することが必要であると考えます。

(2) 基本方針の実現のための取組みの内容

① 経営理念の改訂、パーパスの策定

当社は、2022年12月に創業50周年を迎えるにあたり、49年目の創業記念日である2021年12月2日より、新しい経営理念「『寄り添うチカラ』で人々の感動と笑顔を生み出す」とパーパス（存在意義）「地方創生による社会貢献を通してすべての人や企業にサプライズを提供し、持続可能な未来の発展に貢献します」の適用を開始し、これまで培ってきたシステム（IT）と業務（BPO）のノウハウを通じて広く社会に有益な存在であり続けることを目指して企業活動を推進しています。

② 中期経営計画「NEXT STAGE 2023 - HENCA SINCA SOZO -」の遂行

「お客様に寄り添うチカラ」で持続的成長の実現を目指すことを長期的目標とし、2023年度の財務目標として、売上高210億円、営業利益32億円、ROEおよびROIC13%以上の達成を掲げ、経営基盤の強化、収益性の向上、ESG経営の進化、を進め、環境変化に対応していきます。

③ コーポレート・ガバナンスの強化

当社は、経営の透明・公正な経営体制を構築し、迅速・果敢な意思決定に基づく効率的な業務執行を推進していき、また適時適切な情報開示を実施することによって、ステークホルダーの皆様のご満足を実現し、当社グループの企業価値を永続的に向上させることが企業経営の要であると考えます。

(3) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、上記の基本方針のもと、2006年6月23日開催の第47回定時株主総会におきまして、「当社株式の大規模買付行為への対応策（「買収防衛策」）」を導入し、必要に応じ内容の

改定を行い継続してまいりましたが、2022年5月12日開催の当社取締役会決議により、当社第63回定時株主総会終結の時をもって、買収防衛策を継続せず、廃止いたしました。

なお、当社は買収防衛策廃止後も、当社株式の大規模買付行為を行おうとする者に対しては、大量買付行為の是非を株主の皆様が適切に判断するための必要かつ十分な情報の提供を求め、あわせて当社取締役会の意見などを開示し、株主の皆様の検討のための時間と情報の確保に努めるなど、金融商品取引法、会社法およびその他関連法令の許容する範囲内において、適切な措置を講じてまいります。

(4) 上記各取り組みに対する当社取締役会の判断

当記(2)および(3)に記載の取り組みは企業価値・株主共同の利益を確保し、向上させる取り組みであり、上記(1)の基本方針に沿うものであります。また、当社取締役の地位の維持を目的とするものではありません。

本事業報告中の記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。
また、比率等は表示桁未満の端数を四捨五入して表示しております。

連結貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流 動 資 産	17,676,536	流 動 負 債	4,243,160
現金及び預金	3,597,047	買掛金	1,361,709
受取手形、売掛金及び契約資産	3,660,860	未払法人税等	614,638
有価証券	9,499,685	賞与引当金	547,334
棚卸資産	616,190	契約負債	717,642
その他	302,752	その他	1,001,834
固 定 資 産	3,990,896	固 定 負 債	256,602
有 形 固 定 資 産	903,083	退職給付に係る負債	202,707
建物	334,227	株式給付引当金	38,850
機械装置及び運搬具	0	長期未払金	4,278
土地	149,565	その他	10,767
建設仮勘定	185,107	負 債 合 計	4,499,762
その他	234,183	(純 資 産 の 部)	
無 形 固 定 資 産	455,468	株 主 資 本	16,716,556
のれん	61,577	資本金	1,124,669
その他	393,891	資本剰余金	1,367,439
投資その他の資産	2,632,344	利益剰余金	15,403,603
投資有価証券	1,770,808	自己株式	△1,179,155
繰延税金資産	248,163	その他の包括利益累計額	428,723
その他	613,372	その他有価証券評価差額金	428,436
		繰延ヘッジ損益	1,158
		退職給付に係る調整累計額	△871
		新株予約権	22,390
		純 資 産 合 計	17,167,670
資 産 合 計	21,667,433	負債及び純資産合計	21,667,433

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(自2022年4月1日)
(至2023年3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	額
売上高		18,322,382
売上原価		11,587,396
売上総利益		6,734,985
販売費及び一般管理費		3,517,417
営業利益		3,217,567
営業外収益		
受取利息	3,737	
受取配当金	56,315	
投資有価証券売却益	2,651	
持分法による投資利益	14,203	
その他	35,194	112,011
営業外費用		
支払手数料	5,847	
固定資産除却損	13,543	
投資有価証券評価損	17,861	
投資有価証券売却損	2,125	
会員権評価損	10,646	
その他	1,334	51,357
経常利益		3,278,222
特別利益		
新株予約権戻入益	5,362	5,362
税金等調整前当期純利益		3,283,584
法人税、住民税及び事業税	1,043,560	
法人税等調整額	△51,450	992,109
当期純利益		2,291,474
親会社株主に帰属する当期純利益		2,291,474

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(自2022年4月1日)
(至2023年3月31日)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
当 期 首 残 高	1,124,669	1,359,266	13,943,432	△1,270,459	15,156,908
連結会計年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当			△831,302		△831,302
親会社株主に帰属する当期純利益			2,291,474		2,291,474
自 己 株 式 の 処 分		8,172		91,303	99,476
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	8,172	1,460,171	91,303	1,559,647
当 期 末 残 高	1,124,669	1,367,439	15,403,603	△1,179,155	16,716,556

	その他の包括利益累計額				新株予約権	純資産合計
	その他有価証 券評価差額金	繰延ヘッジ 損益	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当 期 首 残 高	423,869	—	△1,715	422,154	27,867	15,606,930
連結会計年度中の変動額						
剰 余 金 の 配 当						△831,302
親会社株主に帰属する当期純利益						2,291,474
自 己 株 式 の 処 分						99,476
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	4,566	1,158	843	6,569	△5,477	1,092
連結会計年度中の変動額合計	4,566	1,158	843	6,569	△5,477	1,560,740
当 期 末 残 高	428,436	1,158	△871	428,723	22,390	17,167,670

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	16,305,243	流動負債	4,018,854
現金及び預金	2,560,404	買掛金	1,422,242
受取手形	124,329	未払金	429,034
売掛金	2,858,085	未払費用	221,820
契約資産	357,366	未払法人税等	565,507
リース投資資産	112,270	未払消費税等	123,655
有価証券	9,499,685	契約負債	717,642
商仕品	209,486	預り金	34,347
仕蔵品	374,247	賞与引当金	504,604
前払費用	20,716		
その他	182		
固定資産	4,764,734	固定負債	244,579
有形固定資産	835,746	退職給付引当金	201,451
建物	317,573	株式給付引当金	38,850
機械及び装置	0	長期未払金	4,278
工具、器具及び備品	190,191		
土地	149,565		
建設仮勘定	178,416		
無形固定資産	388,724	負債合計	4,263,434
ソフトウェア	214,637	(純資産の部)	
ソフトウェア仮勘定	166,508	株主資本	16,355,411
その他	7,579	資本剰余金	1,124,669
投資その他の資産	3,540,263	資本準備金	1,342,953
投資有価証券	1,652,404	資本剰余金	1,221,189
関係会社株	1,058,699	その他資本剰余金	121,764
関係会社長期貸付金	30,000	利益剰余金	15,061,049
長期前払費用	35,668	利益準備金	94,356
長期性預金	50,000	その他利益剰余金	14,966,692
繰延税金資産	227,380	別途積立金	5,512,500
敷金及び保証金	381,425	繰越利益剰余金	9,454,192
保険積立金	70,581	自己株式	△1,173,259
その他	34,171	評価・換算差額等	428,741
貸倒引当金	△68	その他有価証券評価差額金	427,582
		繰延ヘッジ損益	1,158
		新株予約権	22,390
資産合計	21,069,977	純資産合計	16,806,543
		負債及び純資産合計	21,069,977

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(自2022年4月1日)
(至2023年3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		16,554,934
売上原価		10,537,765
売上総利益		6,017,168
販売費及び一般管理費		2,903,535
営業利益		3,113,633
営業外収益		
受取利息	914	
有価証券利息	3,234	
受取配当金	56,210	
投資有価証券売却益	2,561	
雑収入	22,633	85,554
営業外費用		
支払手数料	5,726	
固定資産除却損	13,543	
投資有価証券評価損	17,861	
投資有価証券売却損	2,125	
会員権評価損	10,646	
為替差損	958	
雑損失	375	51,236
経常利益		3,147,951
特別利益		
新株予約権戻入益	5,362	5,362
税引前当期純利益		3,153,313
法人税、住民税及び事業税	968,489	
法人税等調整額	△59,099	909,390
当期純利益		2,243,922

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(自2022年4月1日)
(至2023年3月31日)

(単位：千円)

	株 主 資 本							
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金			
		資本準備金	そ の 他 資本剰余金	資本剰余金 合 計	利益準備金	そ の 他 利 益 剰 余 金		利 益 剰 余 金 合 計
					別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金		
当 期 首 残 高	1,124,669	1,221,189	113,591	1,334,780	94,356	5,512,500	8,041,573	13,648,429
当事業年度中の変動額								
剰 余 金 の 配 当							△831,302	△831,302
当 期 純 利 益							2,243,922	2,243,922
自 己 株 式 の 処 分			8,172	8,172				0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)								
当 事 業 年 度 中 の 変 動 額 合 計	-	-	8,172	8,172	-	-	1,412,619	1,412,619
当 期 末 残 高	1,124,669	1,221,189	121,764	1,342,953	94,356	5,512,500	9,454,192	15,061,049

	株主資本		評 価 ・ 換 算 差 額 等			新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	自 己 株 式	株主資本合計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		
当 期 首 残 高	△1,264,563	14,843,315	423,527	-	423,527	27,867	15,294,711
当事業年度中の変動額							
剰 余 金 の 配 当		△831,302					△831,302
当 期 純 利 益		2,243,922					2,243,922
自 己 株 式 の 処 分	91,303	99,476					99,476
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			4,054	1,158	5,213	△5,477	△263
当 事 業 年 度 中 の 変 動 額 合 計	91,303	1,512,095	4,054	1,158	5,213	△5,477	1,511,832
当 期 末 残 高	△1,173,259	16,355,411	427,582	1,158	428,741	22,390	16,806,543

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

独立監査人の監査報告書

2023年5月22日

株式会社アイティフォー
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所
指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 正 広
指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松浦 俊 行

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社アイティフォーの2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アイティフォー及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

独立監査人の監査報告書

2023年5月22日

株式会社アイティフォー
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所
指定有限責任社員 公認会計士 伊藤 正 広
業務執行社員
指定有限責任社員 公認会計士 松浦 俊 行
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社アイティフォーの2022年4月1日から2023年3月31日までの第64期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示があるかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
 - ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
 - ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
 - ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
 - ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- 監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。
- 監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査等委員会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2022年4月1日から2023年3月31日までの第64期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容ならびに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ① 監査等委員会が定めた監査等委員会監査等の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針及び同号ロの各取組みについては、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。
- ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書ならびに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- ④ 事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針は相当であると認めます。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号口の各取組みは、当該基本方針に沿ったものであり、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと認めます。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2023年5月23日

株式会社アイティフォー 監査等委員会
常勤監査等委員 本山昌人 ㊟
監査等委員 佐藤誠 ㊟
監査等委員 小泉大輔 ㊟

(注) 監査等委員佐藤誠氏及び小泉大輔氏は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以上

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中旬
基準日	定時株主総会・期末配当：毎年3月31日
公告方法	電子公告 ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 電子公告のホームページアドレス https://ir.itfor.co.jp/announcement/
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社
電話照会先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店

(お知らせ)

- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

- ・未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

- ・「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

株主総会会場ご案内図

会場

東京都千代田区一番町21番地

一番町東急ビル 12F ☎ 03-5275-7841



交通の
ご案内

■ 東京メトロ半蔵門線 **半蔵門駅** 5番出口 徒歩1分

■ 東京メトロ有楽町線 **魏町駅** 3番出口 徒歩7分

※駐車場の用意はいたしておりませんので、お車でのご来場はご遠慮くださいますようお願い申し上げます。